



激動のブラジル経済、カノアにも影響が・・・

日本からブラジルに戻り数日後、トラック運転手のストライキにより、物流がストップしました。原因はガソリンにかかる税金の高騰への反発。しかしそれだけではなく、10月に大統領選を控え、国民の不満がありとあらゆる所から爆発している。そんな感じがしています。2週間の物流停止により、私が住むカノアでもスーパーからまずは卵と牛乳が消え、徐々に棚の品物が無くなっていきました。その後も国道の閉鎖やデモなどが続き、未だにいつ、どこで、何が起こるのか分からない状況の中で暮らしています。しかし、根本の税金高騰に対しては何の処置もされず、国民の生活が不安定になっただけ。経済不安も続く中、いったいどのような方向を向っていくのか、誰一人として分かっていない。そんな現状です。

先日、共にこの活動を立ち上げたエヴァさんが、2週間ほどカノアに滞在しました。今の状況を見てもらい、アドバイスをしてもらおうと同時に、新しく入ってきた教職員に対し、檄を飛ばしてくれました。一人一人の気づきをきちんと全員で共有し、今後の道筋をつけてくれたエヴァさん。そして私個人的にうれしかったのは、彼女が企画した、元園児たちの同窓会でした。エヴァさんが担任を持った、総勢50名以上になる元園児。何名かは外国や遠方において参加できず、参加してくれたのは15名足らず。それでも、それぞれが保育園のときに教えてもらったこと、それがその後の人生にどう生かされたのかを話してくれた様子は、涙、涙の連続でした。その様子の詳細は後程・・・



世界へ羽ばたく！ 「光の子どもたちの会」卒業生

今回は「光の子どもたちの会」の保育園に子どもを通わせてきた
保護者でもあるジレーニ先生にお話を伺いました！

翻訳：鈴木真由美



Girlene Pereira dos Santos
(ジレーニ・ペレイラ・ドス・サントス)

私はジレーニ・ペレイラ・ドス・サントスです。1985年5月30日にカノアケブラーダ、エステーヴァン村に生まれました。現在33歳です。私にはジューリア・サントス・デ・リマという娘が一人います。彼女は3歳から「光の子どもたちの会」が運営する保育園に通っています。娘が保育園に通う中、彼女の成長が保育園に通っていない他の子どもたちと比べて、大きく異なっているのを目の当たりにし、その教育方法を知りたいと思うようになりました。その時からもうだいぶ年月が経ってしまいましたが、この保育園でみんなと一緒に働きたいと願うようになり、もっと学びたいと感じるようになりました。

私は教育学部を卒業し、その後、「教育と文化」の中の芸術コースを専攻しました。大学まで出て勉強したにもかかわらず、教師になるということ、それを職業とする勇気がなく、今に至ってしまいました。私の娘が学童教室に通い、そこでフラビアーニ先生やマルシアーノ先生に教えてもらいながら学んでいる様子は、私にとってとても嬉しく、ここに通っているおかげで、私の娘はこんなにも素敵に成長してくれたのだと実感したものです。そして私は次第に、母親として参加するだけではなく、教師としてこの学童教室で働きたいと願うようになっていきました。

私は手伝うのが大好きで、村のイベントには必ずといっていいほど参加しています。人を助けることも好きですし、子どものために働くのが好きなのはもちろんのこと、新しいことを学ぶことも大好きです。今、私は午前中、環境教育NGOであるヘシクリアンサという団体で環境調査員、人形作りの担い手として働いています。午後は、「光の子どもたちの会」の運営する学童教室の助手として働いています。フラビアーニ先生に教えてもらいながらですが、子どもたちが心から学んでいる様子を見て、ここで行われている活動に強い興味を抱いています。いずれ自分一人で教えることができるように学んでいきたいです。学童教室での活動では、子どもたちと一緒に森や海に材料を取りに行き、私たちの村にあるものを再利用し、芸術に変えていくことがとても面白いと感じています。

「光の子どもたちの会」の活動に参加できることを幸せに感じていますし、感謝しています。未熟な私に扉を開き、一緒に働くことができるようにしてくれたこと。私の力とその可能性を信じてくれたこと。だからこそ、最善を尽くしていきたいと思っています。応援してくださっている皆様、本当にありがとうございます！

元“エヴァ先生クラス”の園児たちの同窓会！

2018年5月24日午後3時。前日からケーキを焼き、昔の写真を並べながら準備していたエヴァさんのもとに、約15名の元園児が集まりました。自分自身がこの地に種をまき、子どもたちの成長を見守ってきたエヴァさん。彼女はその種が彼らの心にどのように根付き、成長したのか。それを知りたいという思いが強くなりました。7歳以下の子どもたちが通う場所のなかった当時、保育園を設立し、12名の子どもを受け入れました。ほとんどの保護者は「ご飯を出してくれるらしい」ということが一番の理由で、子どもたちを通わせていました。そんな保護者と保育園を共に作り続け、エヴァさんはこの保育園で7年間働きました。



同窓会では、自分がどうしてこの地にやってきたのか、どういう思いで保育園を設立したのか、どのような苦労があり、喜びがあったのかについて、彼女はお話しました。その後、遠方にいる元園児から届いた手紙を朗読し、参加した元園児たちが少しずつその思いを語り始めました。

「互いを認め合い、協力し合う心を学んだ」「それぞれが持つタレント（特技）を見つける手助けをしてくれた」「今までで一番おいしい食事を出してくれた」「学ぶ大切さを教えてくれた」「たくさんのお話と歌を教えてくれた」

そんな彼らの言葉を聞きながら、エヴァさんは涙をこらえることができませんでした。自分が教えたかった大切なことを子どもたちはきちんと受け取ってくれていた。それだけで私がここで行った活動の意義はあったのだ、と。

同窓会が終わった後、彼らはスマホアプリを使ってグループを作り、エヴァさんを中心に近況を報告し合っているそうです。全ての元園児が前向きに今の人生を歩んでいる訳ではありません。それでも、こうして学んだことを胸に今を精一杯生きている彼らがいる。それが何よりも私たちには幸せなことなのです。



子育て日記より

中学生となった長女が日本に残ることになったため、私は初めて、二女と2人でブラジルに戻ってきました。初めて1人で日本に残ることを決意した長女。そんな彼女のことが心配で仕方がない…というほどではありませんが、大丈夫かなあ〜と、最後まで不安だった私。それでも空港に着き、行ってくると挨拶をして別れたときには、気持ちが落ち着いていました。そんな中、二女はドーハでの乗り換え後、体調があまりよくないと、食事もありとらずに寝続けていました。もともと乗り物酔いをするタイプであることもあり、あまり心配していなかった私。しかしブラジルに到着し、国内便に乗るという時に嘔吐した二女を見て、「これはおかしいぞ?」と、ようやく私の胸の信号がなりました。置いていく長女のことはばかり考えていた私は、すっかり一緒にいる二女の気持ちを考えることを忘れてしまっていたのです。二女曰く、いつも一緒に入る長女がいない飛行機の中。いつもより窮屈に感じていたと言います。生まれてからこの方、いつも一緒にいた姉がいない。それがこんなにも不安になるものだとは思っていませんでした。二女も彼女なりに今回の状況を受け入れようと必死だったのでしょう。そのことを思いやれなかった私。すまない気持ちでいっぱいです。今では元気に過ごしている二女。2人の娘をきちんと見守っていかねばと心に誓った私なのでした。

カノアニュース*Novidade em Canoa

ヴィヴィアーニからメッセージが届きました。

私が「光の子どもたちの会」の保育園に通った時間はとても特別なものでした。今でも思い出すのですが、通い始めのころ、私は行きたくないといつも泣いていました（幼馴染のマリーザと別の場所で遊びたかったのです）。どうやって私が保育園に慣れていったのか覚えていないのですが、それがとても良い方向に働いたことは言うまでもありません。

担任の先生だったTia Eva（エヴァ先生）。彼女の愛溢れる存在、優しさと忍耐力！そして、今でもそこにいた仲間のことを思い出します。アンジェリーナ、カリアーニ、ルシアーニ、マリーザ、ウェルトン、ブルーノ、ネイルトン、ジョナス、アイルトン、イズマエオ1、2、私、（初めからいたかは覚えていないけど、タイース、マリア、テオドーラ、そしてヒケッタ）。忘れていた人がいたらごめんなさい。

今、私はドイツの大学の教育学部幼児教育専攻で学んでいます。なので、自分の幼児期はどんなだったのか、私はどんな教育を受けてきたのかを何度も思い出す機会があります。私は声を大にして言います。私の幼児期はとても素晴らしく、幸せなものであったと。エステーヴァン村という小さな漁村で生まれ育ったこと。それは私にとって運がよかったといえます。なんて自由に過ごすことができたのでしょうか！今日その日々を振り返ると、なんと価値のある時間だったのかと思えます。自然というものは、子どもが育っていく中でどんなに大切なものであるのか。この自然の中で育っていく中で、どれだけ多くの人たちが支え、教えてくれたことか。敬うこと。愛すること。シンプルな生活の中こそ見いだせるものがあるということ。

私は自分の幼児期について本を一冊書けるとさえ思っています。それだけ自慢できるものだからです。幼児期のことを思い出すごとに、どれだけ素敵な時間を過ごすことができたのかと嬉しくなります。Tia Eva（エヴァ先生）や多くの人たちの力でこの保育園が今もエステーヴァン村にあり、そこに、多くの子どもたちが通うことができることに、心から感謝いたします。

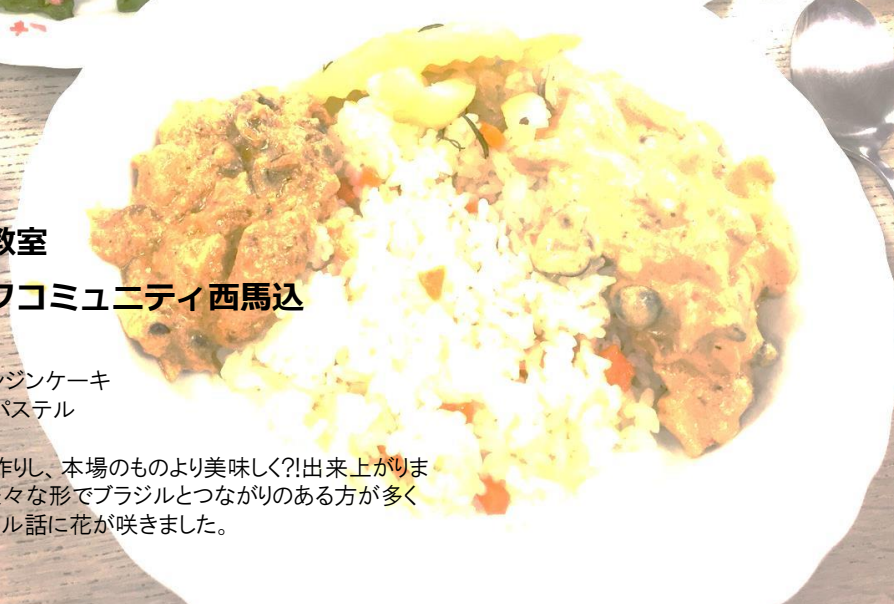
皆さんが素晴らしい一日を過ごせること、そして、たくさんの幸せが訪れることを願って。

大好きな子どもたちへ♥□♥□♥□♥□♥□♥□

今この瞬間、私は大きな幸せの訪れをかみしめています。2018年5月19日、私へのプレゼント、子どもが生まれました！



国内活動＊Atividade no Japão



● 1月& 4月

ブラジル料理教室

@大田区ライフコミュニティ西馬込

メニュー

1月: ストロガノフ、ニンジンケーキ

4月: フェジョアーダ、パステル

パステルは皮から手作りし、本場のものより美味しく?!出来上がりました。1月も4月も、様々な形でブラジルとつながりのある方が多くご参加くださり、ブラジル話に花が咲きました。

● 2月4日(日)

よこはま国際フォーラム2018

毎年恒例の「よこはま国際フォーラム」への参加。今回も井上さく子先生を講師に迎え、実施しました。今回は私たちがブラジルで実施している地域子育て支援ネットワークの概要を説明し、その後、こうした取り組みを日本の子育て支援現場ではどのように実践しているのかを講師の方に話していただきました。

ブラジルでは学校という教育分野、保健所などの保健分野、福祉分野が同じ地域で活動していてもお互いを知らなかったり、情報の共有をしていないために、地域住民が同じ話を何回も、異なる人に話さなければいけないという、現実がありました。さらに、公共事業が滞ることが多い地域において、医者がいない、生活保護の手続きができない、道路が崩落し通れない、学校の授業が予定通りに始まらないなど、住民にはどうすることもできない問題も多く抱えています。しかしそんな中、地域住民を中心に活動しているネットワークでは、できることは自分たちで、できないことはどこか、どのように不足しているのかをきちんと伝えるということを実施することで、今までよりも格段に生活しやすくなっています。

日本の子育て支援の現場でも、昨今では地域との連携を深めており、子どもの声が“騒音”ではなく、居心地のいいと感じる場所にしていくための事例などを話してくれました。昔のように近所の人との助け合いが密ではない現在、それとは異なる、子育て支援の方法を模索していかなければなりません。保育園などの園庭開放、子育て相談、子育て支援センターでの行事や講座など、手の届くところにある支援を目指している地域が多くあることを学ぶことができました。

ブラジルと日本。異なる部分もたくさんありますが、互いに学び合えることも多くあると信じています。だからこそ、こうした国際交流も積極的に進めていきたいと感じているのです。



● 3月24日

総会

@JICA横浜

2018年3月24日、JICA横浜にて、「光の子どもたちの会」の総会が行われました。

代表の鈴木真由美より、29年度の活動報告と、30年度の活動計画が話されました。また、JICA草の根技術協力支援のライフスキルトレーニングで使用したSWOT分析についてもみんなで体験しました。

今回はJICAの日系社会青年ボランティアで2年間ブラジルに行っていた谷村祥子さんが帰国したのに合わせて、活動報告をしてくださいました。ブラジルのベレンの日系人が経営する学校で活動した経験を話してくれました。現地で作られているチョコレートもお土産に持って来てくれて、みんなで盛り上がりました。

活動計算書

2017年 1月 1日 ～ 2017年 12月 31日 まで

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	125,000	125,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	1,398,165	
学資支援費	0	
修繕支援金	0	
サッカー支援金	0	
音楽支援金	0	1,398,165
3. 受取助成金等		
LUSHジャパン	539,000	
日本国際協力財団	853,000	1,392,000
4. 事業収益		
物品販売	97,108	
JICA草の根技術協力型	3,643,000	3,740,108
5. その他収益		
受取利息	0	0
経常収益計		6,655,273
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	1,217,521	
人件費計	1,217,521	
(2) その他経費		
保育園事業	42,578	
音楽支援事業	0	
施設維持費	57,654	
学資支援費	0	
LUSHジャパン	571,832	
日本国際協力財団	801,801	
JICA草の根技術協力事業	3,744,060	
その他経費計	5,217,925	
事業費計		6,435,446
2. 管理費		
(1) 人件費		
人件費計	0	
(2) その他経費		
雑費	86,228	
その他経費計	86,228	
管理費計		86,228
経常費用計		6,521,674
当期正味財産増減額		133,599
前期繰越正味財産額		383,898
次期繰越正味財産額		517,497

活動予算書

2018年1月1日から2018年12月31日まで

法人の名称 特定非営利活動法人 光の子どもたちの会

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	250000	250000
2. 受取寄附金		
受取寄附金	2000000	2000000
3. 受取助成金等		
日本国際協力財団	0	0
4. 事業収益		
国際協力事業(物品販売)	100000	
子育て支援事業(JICA草の根技術協力)	2669000	2769000
5. その他収益		
受取利息	10	10
経常収益計		5019010
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	1700000	
人件費計	1700000	
(2) その他経費		
教育支援事業		
保育園及び学童教室食材費	30000	
保育園及び学童教室教材費	30000	
保育園及び学童教室研修費	30000	
保育園及び学童教室施設維持費	60000	
地域子育て支援事業(日本国際協力)	476199	
子育て支援事業(JICA草の根技術協)	2669000	
国際協力に関連する教育分野の普及啓発事業		
原稿・講師謝礼	30000	
会場費	5000	
雑費	5000	
国際交流事業(事業報告会等の実施)		
会場費	5000	
雑費	5000	
国際協力事業(物品販売)		
会場費	30000	
雑費	5000	
支援寄付金	10000	
その他経費計	3390199	
事業費計		5090199
2. 管理費		
(1) 人件費		
人件費計	0	
(2) その他経費		
雑費	100000	
その他経費計	100000	
管理費計		100000
経常費用計		5190199
当期正味財産増減額		△ 171189
前期繰越正味財産額		517497
次期繰越正味財産額		346308

ありがとうございます＊Obrigado

平成29年12月20日～平成30年5月21日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

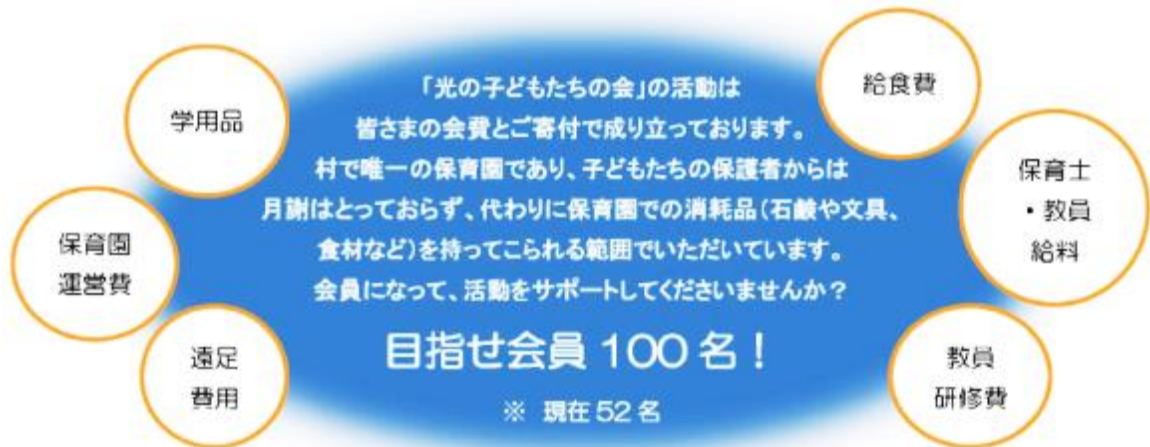
本当にありがとうございました。これからも一人でも多くの方に会員になって頂き、カノアの活動を共に支えていただけたら嬉しいです。目標会員100名！！

会費及び寄付を頂きました皆様（順不同）

石田まどかさま、井上さく子さま、太田朋子さま、加藤恵美子さま、神田昌実さま、定森徹さま、佐藤知子さま、岡本ゆり子さま、影山由香里さま、岩本ともみさま、瀧川佐和子さま、馬場悠男さま、長谷川宏さま、藤本くみさま、堀池眞輔さま、堀池ミツ子さま、三浦佐千夫さま、三崎健司さま、村上誠さま

物資支援をいただきました皆様（順不同）

田中千鶴子さま、三崎健司さま、横浜市立栗田谷中学校さま、横浜シュタイナー学園さま



年会費（五千元）・ご寄付のお振込み方法は4つ

1. 自動引き落としによる振込み

自動引き落とし希望の口座のある金融機関で手続きができます。引き落とし日、金額をご指定いただけます。尚、ゆうちょ銀行の場合は以下の(2. 郵便振替)と同じ口座番号ですが、他金融機関からの振込の場合には(3. ゆうちょ銀行振込)の口座番号となりますので、ご確認ください。

2. 郵便振替

口座番号: 00280-1-41787

加入者: 光の子どもたち-カノアの活動を支える会

3. ゆうちょ銀行振込

名義: 光の子どもたちの会 店名: O二八(ゼロニハチ)
店番号: 928 普通預金 口座番号: 5552598

4. インターネットよりクレジットカードで振り込み

光の子どもたちの会ホームページ

(http://criancasdeluz.org/inicial/index_jp.html)より、
お振込みいただけます。

お問い合わせ先: 代表 鈴木真由美、日本事務局長 堀池眞輔

〒221-0841 神奈川県横浜市神奈川区松本町 1-7-1 TEL/FAX 045-321-1824

info@criancasdeluz.org

フェイスブック「光の子どもたちの会」 ホームページ: <http://criancasdeluz.org>